

水史談会報

【号外】
2020(令和2)年
8月発行 垂水史談会

終戦から75年

『垂水市立図書館で資料展示』 8月1日(土)～31日(月)

今年太平洋戦争が終結して75年。4分の3世紀が経過したことになります。戦時中の当時のことを知る方々も年を追って少なくなりつつあります。

毎年市立図書館で開催している『戦争のあったころのことを知ろう』展は今回、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料展示のみとなりました。

8月末まで、証言記録や焼夷弾、防空頭巾、記録写真などの資料展示を行う予定。

← 垂水棧橋での出征壮行風景



昭和20(1945)年8月5日の垂水大空襲
 < 午前11時過ぎ～午後4時頃まで >

死亡者数・・・86人

中央・市木 (32人)	終原 (39人)
海潟・中俣 (3人)	新城 (10人)
牛根 (2人)	

【昭和20年8月5日、米軍機のガンカメラが写した



↑ 空襲を受ける下宮付近



【焼失した垂水市街】←



← 中央町の家の解体中に地中から発見された【焼夷弾】

【研究ノート】

― 農民兵士「是井太一」^{ぜいたいち}氏の出兵から戦死まで ―

瀬角龍平

大正四(一九一五)年五月二〇日六人の姉をもつ唯一の男子として中俣に生まれ、是井太一氏は、昭和十一(一九三六)年、二〇歳で鹿兒島の第四五聯隊に入営。



翌年七月に盧溝橋事件勃発のため、八月一日鹿兒島屯営を出発し、門司港から釜山を経て華北において幾つかの戦闘に参加。後、塘沽から乗船して華南に移動し、南京等の戦闘などに参加。昭和十三(一九三八)年六月十四日、斥候勤務中戦死。二十四歳。

【墓碑転写】

法名釋弘章信士

〔八月一日、鹿兒島市伊敷の第四十五連隊の兵営を出発〕



是井太一君ハ幼少ク體育健康性質温順實直昭和十一年一月十日現役兵トシテ歩兵第四十五聯隊第十一中隊ニ入営九月一日歩兵一等兵昭和十二年七月廿七日日支事變起因動員下令八月一日鹿兒島屯営出發八月四日門司港出帆八月六日釜山上陸安東山海關通過八月十五日黄村着附近警備八月十七日黄村出發八月十八日禮賢鎮着九月六日迄全地附近警備九月七日迄全十三日迄永定河第三大隊主力偵察戰爭參加九月十四日迄全廿七日涿州保定會戰參加九月廿八日迄十月六日迄石家莊及滏陽河附近會戰參加十月十七日迄全廿六日迄石家莊附近警備十月廿八日全地出發十月廿九日塘沽着十月卅一日塘沽港出帆十一月六日迄杭州灣北岸上陸作戰參加十一月七日迄全月十七日

近湖東會戰参加十一月十八日十二月十四日迄南京會戰参加十二月十五日迄全廿一日迄同地警備十二月廿二日南京出發全廿三日大平府着十二月廿四日迄昭和十三年三月十三日迄大平府附近警備三月十四日迄全月廿六日迄廣德建平附近ノ戰爭三月廿七日迄六月十四日迄洪村附近警備戰爭六月十四日安徽省宣城縣王家山西方約二軒ニテ斥候勤務中頭部貫通銃創負ケ戦死ス戦功ニ依同年同月同日歩兵上等兵ニ進級功七級金鵝勳章並二年金壹百五十円及勳八等白色桐葉章ヲ賜フ昭和十四年五月一日昭和十二年陸軍省告示第三十九号ニ依り特ニ金壹千四百円也ヲ賜フ帝国軍人トシテ其名譽勳功英名ハ千秋萬古ニ傳フベシ

昭和十三年六月十四日戦死

享年二十四歳

《は「より」の合字、ゴシックは資料により文字修正》

【読み下し】

是井太一君は幼少より體育健康、性質は温順實直。昭和十一年一月十日、現役兵として歩兵第四十五聯隊第十一中隊に入營。九月一日、歩兵一等兵。

昭和十二年七月二十七日、日支事變起り、因つて動員の下令あり。

(赤の実線は転戦経路)



八月一日、鹿児島屯営出發。八月四日、門司港出帆。八月六日、釜山上陸。安東、山海関通過。八月十五日、黄村着、附近警備。八月十七日、黄村出發。八月十八日、禮賢鎮着。九月六日迄、全地附

近警備。九月七日より全十三日迄、永定河の第三大隊主力偵察戰に参加。九月十四日より全二十七日、涿州保定會戰に参加。九月二十八日より十月六日迄、石家莊及び滏陽河附近の會戰に参加。十月十七日より全廿六日迄、石家莊附近の警備。十月廿八日全地出發。十月廿九日塘沽着。

十月廿一日、塘沽港出帆。十一月六日迄、杭州湾北岸上陸作戰に

陸軍軍人の階級	
大將	陸軍大將
中將	陸軍中將
少將	陸軍少將
大佐	陸軍大佐
中佐	陸軍中佐
少佐	陸軍少佐
大尉	陸軍大尉
中尉	陸軍中尉
少尉	陸軍少尉
准尉	陸軍准尉
曹長	陸軍曹長
軍曹	陸軍軍曹
伍長	陸軍伍長
兵長	陸軍兵長
上等兵	陸軍上等兵
一等兵	陸軍一等兵
二等兵	陸軍二等兵

参加。十一月七日より全月十七日迄、湖東會戰に参加。十一月十

八日より十二月十四日迄、南京會戰に参加。十二月十五日より全廿

一日迄、同地警備。十二月廿二日、南京出發。全廿三日、大平府着。

十二月廿四日より昭和十三年三月十三日迄、大平府附近警備。三月

十四日より全月廿六日迄、廣德・建平附近の戰爭。三月廿七日より

六月十四日迄、洪村附近警備戰爭。

六月十四日、安徽省宣城縣王家山西方約二軒にて斥候勤務中、

頭部に貫通銃創を負ケ戦死す。

戦功に依り同年同月同日、歩兵上等兵に進級、功七級、金鵝勳章並

に年金・壹百五十円及び勳八等・白色桐葉章を賜う。昭和十四年

五月一日、昭和十二年陸軍省告示第三十九号に依り、特に金壹千

四百円也を賜う。

帝国軍人として其の名譽・勳功・英名は千秋萬古に傳うべし。



昭和十三年六月十四日戰死

享年二十四歲

(功七級 金鷄章)